

review × review

飛翔編集員による「お勧めの一冊」をご紹介します。
是非、読書の参考にしてみてください。

『東京タラレバ娘』 東村アキコ

『主に泣いてます』や『かくかくしかじか』、『海月姫』で知られる漫画家・東村アキコによる未婚のアラサー・アラフォー女子の恋愛をパンチのきいたタッチで描いた痛快ラブコメディー！？婚期を逃した主人公の鎌田倫子と高校時代からの友達の花と小雪。それぞれの複雑な恋愛模様がリアルすぎてハラハラドキドキよりもむしろ恐怖。胸キュンなんてありません。まだまだそんな歳ではないけれど、この漫画を読んでいると非常に不安にかられます（笑）。コミックに収録されている番外編の「タラレBar」では東村先生によるお悩み相談も面白いです。

読んでいると心をえぐられる時もあるけれど、ぜひ多くの女子に読んでほしいです！もちろん男子にもお勧めします。

松林美希

『沈黙』 遠藤周作

私がオススメするのは小説『沈黙』です。ハリウッド映画化されます。

江戸時代、鎖国状態の日本で、潜伏していた師が棄教したことを知った主人公ロドリゴは、細々と信仰を守る日本人のもとへ命懸けで長崎へと向かいます。しかし、ロドリゴ達を待ち受けていたのははるかに厳しい現実でした。

キリスト教信者であった作者、遠藤周作の心の葛藤まで表象されるこの作品、映画に合わせてぜひ読んでみてください。

佐藤志穂子

『風が強く吹いている』 三浦しをん

「箱根駅伝を走りたい」。致命的な故障を抱えるハイジだが、天才ランナー、走との出会いから箱根への挑戦が始まる。あとのメンバーは、陸上とは縁のない8人。漫画オタクやインテリ、田舎の神童などとても走れるとは思えないような面々だ。そんな個性豊かなメンバーだが、衝突と成長を繰り返しながら箱根の夢へと近づいていく。

面白さの中に、走ることへの情熱や迫及していく姿が描かれていて、挑戦するパワーをもらえる作品。

森脇実穂

『ナラタージュ』 島本理生

主人公、工藤泉は学生時代、顧問の葉山先生に恋をしていた。ある日、葉山先生からの誘いで卒業生として部活に参加することになった泉は、自分の中の葉山先生に対する想いを再認識する。葉山先生の嘘に深く傷付きながらも彼を嫌いになれない泉と、泉への捨てきれない想いを抱きながら彼女を幸せにできない葉山先生。真っ直ぐなのに絡まった、そんな物語。

冒頭に「子供だったから愛とは違うとかじゃなくて、子供だったから、愛してるってことに気がつかなかったんだよ」というフレーズが載っているのですが、この本を読む前と読んだ後ではこの言葉の響き方に雲泥の差が出ます。この本の中にはそんな、誰もが知った感情なのに言葉にされて初めて自分が知っていたことに気付かされるような気持ちがぎゅうぎゅうに押し込まれています。

お勧めの一冊です。

坂田彩夏

『アヒルと鴨のコインロッカー』 伊坂幸太郎

大学入学のために引っ越してきた椎名は、同じアパートの住人河崎から、一緒に広辞苑を盗まないかと誘われる。一方、ペットショップの店員である琴美は、恋人のドルジと共に、ペット惨殺事件の犯人と出会ってしまう…。椎名という大学生の現在の物語と、琴美という女性の2年前の物語が同時に描かれていて、関係のないように思える2つの物語がだんだんと繋がっていきます。最後にはきっと、驚きと感動が待っているでしょう！

松崎明日香